

雲井(品種解説シリーズ)

園芸作物の新品種

誌名	園芸作物の新品種
ISSN	
著者名	
発行元	農林水産技術会議事務局
巻/号	
巻号補足	
掲載ページ	p. 78-79
発行年月	1967年3月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター

Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



4. ナ シ

雲 井 (くもい)

登録番号 ナシ農林1号

旧系統名 ロー5

1. 育成経過

本品種は、昭和14年(1939)に、「石井早生」に「八雲」を交配してできた交雑実生である。

は種年次 昭和15年(1940)

接木年次 昭和16年(1941)

初結実年次 昭和19年(1944)

第1次選抜年次 昭和24年(1949)

昭和24年(1949)に第1次選抜を行ない、同年に平塚(農林省園試)、東海近畿農試園芸部、福島園試、新潟園試、長野農試下伊那分場、神奈川園試、兵庫農試但馬分場、鳥取農試および愛媛果試の各試験研究機関および静岡県下の栽培者に依頼して地方適応試験を開始した。その後特性が次第に明らかになり、将来有望と考えられるに至ったので、東京中央卸売市場に、果実を出品して、その市場性を調査し、それらの成績を総合検討した結果、経済品種として有望と認め、「雲井」と命名、昭和30年(1955)に発表した。

2. 特性概要

樹性 樹性強健、やや直立性で「石井早生」に似ているが、枝の発生はやや少なく、強い発育枝が発生する。短果枝の着生良好で、整枝せん定は容易である。

若葉は緑かつ(褐)色を呈し、細毛少なく、成葉は短だ円形で葉面は平滑であり、大きさ大である。花芽の着生は、きわめて良好であるが、花粉はほとんど形成されない。

果実 果実の大きさは300g内外、形状はやや偏円形で整い、玉ぞろい良好である。色は淡緑かつ(褐)色を呈し、外観良好である。

果肉は白色、肉質はち密で軟らかく、果汁すこぶる多い。甘味やや少なく、屈折糖度計示度は11.0度内外である。

熟期は8月上～中旬で、「石井早生」よりわずかにおそい。

3. 適地ならびに栽培上の注意事項

黒はん(斑)病抵抗性で、黒星病に対しても強く、「石井早生」よりも病害防除が容易である。また「石井早生」に認められるような裂果は見られない。短果枝の着生多く、整枝せん定は容易で、豊産性である。果実の肉質は「石井早生」に比べて、はるかに良好で、甘味についても、ほぼ「石井早生」と同程度である。したがって本品種は「石井早生」に比べて品質的にも、また栽培性の面でもすぐれている点が特長である。しかし、収穫時期がおそいと、心腐れの発生が認められるので収穫時期に注意を要し、果皮がかつ(褐)色に着色する頃ではおそすぎる。また小果になると品質が劣るので、摘果を充分に行ない、適正果数にすることが重要である。

本品種の普及地帯は、果実の甘味の点からみて、静岡県以南の暖地である。

4. 試験成績

各地における開花期、収穫期、1果平均重および果汁糖度に関する発表当時の成績は、次のとおりである。

(1) 昭和28年(1953)

試 験 地	開 花 期	収 穫 期	1果平均重	果汁糖度
	月 日	月 日	g	
鳥 取 農 試	4.13—4.21	8. 6—8.20	144	10.1
千 葉 農 試	4.10—4.14	8.10—8.27	209	10.6
兵 庫 農 試	4.21—4.27	8.15—8.22	251	9.8
農技研(平塚)	4.14—4.24	8.20—8.24	258	10.0
愛 知 園 試	4.16—4.29	8.17—8.30	243	11.2
愛 媛 果 試	4.11—4.15	8.10—	260	10.0

(2) 昭和30年(1955)

試 験 地	開 花 期	収 穫 期	1果平均重	果汁糖度
	月 日		g	
秋 田 果 試	5. 5—5.11	9月上旬	295	7.9
		月 日		
福 島 園 試	4.24	8.25—9. 3	—	—
農技研(平塚)	4.14—4.21	8.12—8.19	328	—
愛 知 園 試	4.15—4.21	8.17—8.27	215	10.8
三 重 農 試	4.14—4.22	8.15	225	10.0

5. 育成場所および育成者氏名

園芸試験場

梶浦実, 森英男, 森田義彦, 佐藤敬雄, 金戸橘夫, 町田裕